

新年のごあいさつ



豊中市議会議員
福岡 正輝



豊中市長
浅利 敬一郎

明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申しあげます。

平素は豊中市政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

昨年は、市民文化の創造発信の拠点として文化芸術センターをグラウンドオーブンいたしました。多くの市民の皆さんが、文化芸術活動をはじめ、さまざまな催しに活用いただいているところです。また、「高校野球発祥の地記念公園」をリニューアルオープンするとともに、ふるさと納税の返礼品として、高校野球発祥の地記念切手シートや記念ボールを加えました。

そして本年は、夏の全国高等学校野球選手権大会が100回記念大会を迎えます。高校野球がより、多くの人に愛され、発展していくことを願うとともに、高校野球発祥の地を豊中ブランドとして、さらに発信してまいります。

今後、市内外の皆様に豊中の魅力を知っていただき、活力と創造性あふれるまちづくりに、全力で取り組んでまいります。

皆様には、引き続き、ご支援とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、新しい年が充実した素晴らしい年となりますようお祈りいたします。

明けましておめでとうございます。

皆様方には、心も新たに新春をお迎えのこととお慶び申しあげます。

旧年中は、市議会活動に温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

昨年は、卓球や陸上、柔道など、さまざまなスポーツの世界大会で数多くの日本人選手がメダルを獲得し、本市においても、箕面自由学園高校がチアリーダーینگ日本選手権大会で7連覇を達成するなど、輝かしい成績をあげられました。

現在、本市においては、新しい総合計画や都市計画マスタープランの策定に向けた取り組みが進められており、豊中市の針路を定める重要な時期となっております。

市議会におきましても、常任委員会のインターネット中継の検討など、議会の広報事業の充実に向けたさまざまな協議を進めており、今後も、さらなる議会の活性化に努め、より身近な開かれた議会をめざし、市民の皆様の負託に応えられるよう、真摯に取り組んでまいります。

本年も一層のお力添えをお願いしますとともに、本年が皆様方にとりまして、健やかで実り多い年となりますことを心よりお祈りいたします。



夏の全国高校野球大会が今年で第100回

発祥の地から伝える 高校野球と 豊中の魅力



今年是全国高等学校野球選手権大会が100回を迎えます。市は、その前身である全国中等学校優勝野球大会が大正4年(1915)に初めて開催された高校野球発祥の地。豊中で始まり、毎年、市民に多くの感動や元気を与えてくれる高校野球は、まちの大きな魅力の一つになっています。そこで、平成29年(2017)春の第89回選抜高等学校野球大会で準優勝した履正社高校(長興寺南)野球部の若林将平選手、安田尚憲選手と、同校出身で奈良学園大学に進み、大学日本代表として同年の第29回ユニバーシアード競技大会に出場した宮本丈選手を迎え、浅利敬一郎市長と共に高校野球や豊中の魅力について、語り合いました。

撮影場所：高校野球発祥の地記念公園(玉井町)



若林 将平さん
履正社高校野球部3年生 外野手

主将になった2年生の時に出場した明治神宮野球大会(高校の部)では、チームトップの打率4割5分2厘を記録し、16試合でチーム最多の24打点を挙げ、同校を優勝に導いた。今春から慶應義塾大学に進学予定。



安田 尚憲さん
履正社高校野球部3年生 内野手

高校通算65本のホームランを放つ。第28回WBSC U-18野球ワールドカップに日本代表として出場し、3位に貢献。今春から千葉ロッテマリーンズに入団予定。

子どもの頃から 野球が身近に

淺利市長 まずは、皆さんそれぞれに進路を決められ、おめでとございます。宮本さんと安田さんはプロ野球に、若林さんは大学進学ですね。皆さんがこれからも野球を続けていかれることを、とてもうれしく思います。野球との出会いはいつ頃でしたか。

宮本 父に連れられ甲子園球場によく行っていました。プロ野球選手に憧れて、小学2年生で地元の小鳩スプリンターという軟式野球チームに入りました。

安田 私は12歳上の兄が野球をしていたため、生まれた時から身近にあり、野球と共に育った感じです。野球チームに入ったのは小学1年生でした。

若林 初めてボールに触れたのは、父とのキャッチ

ボールでした。野球をしてほしいという父の強い思いもあり、小学3年生でチームに入りました。今でも、父は私のプロ野球選手になるという夢を後押ししてくれており、とても心強いです。

野球を続ける 原動力

市長 身近な家族との関係が野球を始めるきっかけになり、応援が一層努力することにつながったのですね。皆さんは小学生から野球を始め、うれしいことばかりでなく苦勞やつらいこともあったと思いますが、長く続けてこられた原動力となったものは何ですか。

宮本 とにかくプロ野球選手になりたいという強い思いです。夢を追い掛けてきました。中学生の時に山田哲人選手(現・東京ヤクルトスワローズ所属。高校野

球発祥の地・豊中 親善大使が甲子園で活躍する姿を見て、「あんな選手になりたい」と思い、同じ履正社高校に入りました。在学中に甲子園の舞台に2回立つことができました。1回目は無我夢中でしたが、2回目は自分の野球をすることができ、自身の成長を感じ、とても貴重な経験となりました。

市長 いろいろなことを克服しながら継続するのは大変な努力が必要で、そのためには、夢や目標など気持ちを奮い立たせるものがあるということはとても大事だと感じます。

安田 本当に野球が好きという思いがこれまで力になってきました。練習がしんどくても辞めたいと思っただことは今まで一度もありません。1年生の夏に甲子園でベンチ入りした時は、前の日から緊張して記憶がないくらいでした。しかし、昨年春の選抜高等学校野球大会では経験を生かして楽しみながらプレーをする



宮本 丈さん

奈良学園大学野球部4年生 内野手

豊中市出身。履正社高校野球部では甲子園に2回出場。同大学では1年生からレギュラーとなり、4年生春までに7季連続でベストナインを受賞。今春から東京ヤクルトスワローズに入団予定。



浅利 敬一郎市長

魅力 高校野球の

ことができました。
若林 春からは大学に進学しますが、その先にはプロ野球選手になるという目標があります。2回の甲子園出場と主将を務めたことは本当に良い経験になりました。思い返すと主将としてもっとできることがあったのではないかと、考えることもあり。しかし、そうした悔しさが次へのやる気になっています。

市長 高校野球には皆さんを強くする何かがあります。ですね。昨年の選抜高等学校野球大会の決勝戦は私も球場で応援していたのですが、本当に興奮しました。高校野球を見ると、選手一人一人の真剣なまなざしや、選手と一体となり最後まで諦めない応援席の姿

にいつも感動します。皆さんが考える高校野球の魅力はどういったところですか。

宮本 大学野球は、普段は春と秋のリーグ戦方式のため、何試合にもわたり力を出し続ける難しさがあります。一方、高校野球は甲子園出場をめざして一戦一戦勝ち上がるトーナメント方式で、注目度も高いため、独特の「緊張感」や「空気感」があると感じます。

若林 高校野球では「流れ」こそが一番面白いところではないかと思えます。球場に来ている皆さんの応援や盛り上がりにも「流れ」を感じます。試合の移り変わりも激しく、たった一球で試合の流れが変わることもあります。また、負けたら終わりであり直しが利きません。自然と一投一打に魂がこもります。

昨年春の選抜高等学校野球大会では、惜しくも決勝で負けてしまいました。しかし、決勝戦の8回裏、大阪桐蔭高校に3対3の同点にまで追いついた時は、試

合をしている選手たちはもちろん、球場全体が熱気に包まれていました。あの時の盛り上がりは言葉で言い表せないほどで、心の底から幸せを感じた瞬間でした。

安田 高校野球は、学校同士のプライドがぶつかり合う場で、「絶対負けられないんだ」という真剣勝負が繰り広げられます。選抜高等学校野球大会の決勝で戦った大阪桐蔭高校は、何度も対戦したライバルでした。真剣勝負だからこそその緊張感が最高に心地良く感じられました。この経験は楽しい思い出でもあります。

市長 なるほど。そうした魅力があふれる高校野球の発祥の地であることは、豊中にとって大切な財産です。
 高校野球発祥の地記念公園には夏の大会第一回からの優勝校と準優勝校の名前をプレートで掲示しています。豊中の高校が刻まれるよう期待しています。

平成29年度近畿学生野球秋季リーグ戦で打席に立つ宮本丈さん
(写真提供：奈良学園大学)



第89回選抜高等学校野球大会2回戦で決勝打を放つ若林将平さん
(写真提供：毎日新聞社)



第89回選抜高等学校野球大会決勝戦で安打を放つ安田尚憲さん
(写真提供：毎日新聞社)



チームならではの やりがい

市長 高校球児の皆さんの走る・投げる・打つといったきびきびしたスピード感あるプレーや無我夢中で打球を追う姿勢は、本当にすがすがしく、見るものをひきつけます。また、野球は個人プレーではなく、チームが一丸となることが本当に大切で、魅力になっていますね。私は高校生の時、陸上部でリレーの選手でした。リレーはメンバー全員がバトンをしっかりかつなぐことで、良いタイムが出せるのですが、私はバトンを渡すときに次の走者とタイミングが合わず、バトンを渡せなかったことがあります。今でもはっきりと覚えている失敗談ですが、チームで力を合わせて一つのことをやり遂げる難しさや、そのために一人一人が役割を果たすことの大切さを、身を持って学ぶことが

できました。皆さんの感じたチームであることの良さや難しさはどんなことですか。

宮本 試合に出られる人数は決まっています。出られなかった人は、試合以外の部分でサポートし、試合に出場する人は皆の思いを背負って頑張るという団体競技ならではの良さがあると思います。

市長 試合に出場していないメンバーも含め、全員でプレーしているんですね。

若林 そうなんです。出場メンバー以外の人も対戦相手のデータを集めたり、チームが勝つための作戦を練ったりします。いろいろな役割をみんなで果たすことが、目標の達成につながるのので、チーム全員の一体感が欠かせません。

安田 チームスポーツは一度勢いがなくなると、一つにまとまるのが難しくなってしまうんです。逆に、チームが一つになると勢いに乗ります。若林君は話すが得意ではないですが、誠実で決して楽をすることはあ

りませんでした。部員の模範としてプレーで見せてチームを引っ張る主将で、その姿を見てみんなが付いていき、一つにまとまっていました。そんなチーム全員で頑張って勝つ喜びは一人では決して味わえないものなので、成し遂げた時の感動もひとしおです。

野球を通して 学んだこと

市長 試合で活躍した選手に注目が集まりがちですが、それを裏で支える人がいてこそですね。裏方の人たちもとても重要な役割を果たしていることがよく分かります。それぞれが個性を生かして支え合い、活躍できることは、豊中のまちづくりにおいてもめざしているところなんです。皆さん、野球から人生で大切なさまざまなことを学んできたのでしょうか。

安田 中学生の頃に比べて、人のアドバイスを素直に

受け入れることができるようになったと思います。素直さや柔軟な心は、どんな世界でも自分の成長のために大切なものと考えています。

若林 高校3年間は野球中心の生活でしたが、少しでも文武両道をめざして取り組んできたことは、今後私の糧になると思います。

市長 野球というスポーツを通して、心も成長されてきたのですね。

宮本 好きで始めた野球ですが、もちろん練習がつらいと思うこともありましたが、それでも、そんな気持ちに負けずに頑張ってきたことで、忍耐力が身に付いたと思います。厳しいことにも立ち向かっていく強い力をこれからの人生に生かしていきたいです。

温かく迎えてくれる街 豊中

市長 皆さんそれぞれに豊中とのゆかりがありますが、豊中にはどんな思い出がありますか。

宮本 豊中で生まれ育ったので、たくさん思い出があります。母校の庄内西小学校(庄本町)のグラウンドで走り回ったりボールで遊んだりしたことが、野球をする原点であったと思います。履正社高校は「文武両道」を掲げ、早期テストがあるなど大変な面もありましたが、継続することの大切さを学びました。また、神崎川の河川敷では今でも時々ランニングをしています。

市長 豊中が活躍の原点となっていることをうれしく思います。

若林 阪急曽根駅から履正社高校までの通学路に選抜高等学校野球大会の準優勝を祝うのぼりを掲げたお店

があり、うれしくなりました。地域の皆さんの応援がとても温かく、素晴らしい街だなと思います。

安田 準優勝の報告のため野球部で豊中市役所を訪問した際、たくさんの方々が拍手で迎えてくれ、とても感動しました。豊中市を代表して戦うことができたことに誇りを感じました。

市長 皆さんがこれからも活躍されることを期待しています。

昨年は豊中市の魅力の一つ、高校野球発祥の地を広く市内外にPRするため、高校野球発祥の地記念公園の整備やふるさと納税の返礼品としてボールや切手の記念グッズを作製するなど、さまざまな取り組みを行いました。

夏の全国高校野球大会が第100回を迎える今年も、高校野球と豊中市を共に盛り上げていきたいと思えます。本日はありがとうございました。

(敬称略)



ふるさと納税の返礼品「高校野球発祥の地記念グッズ」は平成29年度・30年度限定です

